

日光協ニュース

No.286
2024-06

日本光学工業協会

日本光学工業協会の役員会開催

6月6日(木)、港区芝公園の機械振興会館会議室において、令和6年度の日本光学工業協会役員会が開催されました。出席者と主な報告・審議事項は以下のとおりです。

1. 出席者

牛田一雄会長（日本光学工業協会）
山中徹副会長代理：堀専務理事（日本写真映像用品工業会）
池上博敬理事代理：伊藤事務局長（カメラ映像機器工業会）
齋藤吉毅理事代理：藤本事務局長（日本顕微鏡工業会）
濱谷正人理事代理：茂木事務局長（日本光学測定機工業会）
秋山雅孝理事代理：大隅事務局長（日本医用光学機器工業会）
丹澤孝監事代理：野田事務局長（日本測量機器工業会）

2. 報告・審議事項

まずI号議案の「令和5年度事業活動」及び「令和5年度収支実績」についての報告が行われ、審議・承認されました。主な報告活動は以下の通りです。

- (1) 計測計量技術専門委員会関係
- (2) 技能検定実施支援
- (3) 国際規格標準化活動

次いで、Ⅱ号議案「令和6年度役員選出」が審議され、令和6年度新役員が次のとおり選出されました。

<u>協会役職名・氏名</u>	<u>所属団体会長</u>	<u>所属企業・役職名</u>
会 長:牛田 一雄	—	(株)ニコン取締役会議長
副会長:山中 徹	日本写真映像用品工業会	(株)ケンコー・トキナー代表取締役社長
理 事:池上 博敬	カメラ映像機器工業会	(株)ニコン上席常務執行役員
理 事:吉本 浩之	日本顕微鏡工業会	(株)エビデント 代表取締役社長
理 事:濱谷 正人	日本光学測定機工業会	(株)ニコン上席常務執行役員
理 事:秋山 雅孝	日本医用光学機器工業会	富士フイルム(株)取締役執行役員
監 事:丹澤 孝	日本測量機器工業会	(株)ニコン・トリプル代表取締役社長

各工業会会長が変更の場合、新会長が引き継ぎことで承認されました。

次いで、第Ⅲ号議案「令和6年度事業計画」及び「収支予算案」の説明が行われ審議・承認されました。令和6年度の主な事業計画は以下の通りです。

- (1) ISO/TC172 国内委員会及び同 SC1 国内分科委員会及び同 SC4 国内分科委員会の事務局として、国際規格の制定に協力する。
- (2) 「光学機器製造」関係の技能検定実施に協力団体として活動していく。
- (3) 光学機械器具の生産・出荷・輸出入統計の編集・作成を行い関係部署に提供していく。
- (4) 卓越した技能者の表彰については、当協会会長が審査委員会委員の委嘱を受けており引き続き協力していく。
- (5) 光学産業に共通する課題について情報の収集を行い、対応協議の場を設定する。
- (6) 日光協ニュースを発行し、会員各位に情報を迅速に提供するとともに、当協会の活動状況をご理解いただく努力をする。
- (7) IT 機器の活用により関係団体との連絡の効率化・迅速化を図っていく。
- (8) 会員間の相互理解と親睦のため、有益な場を活用していく。

次いで、第Ⅳ号議案、「定款変更」に関して、原案通り可決されました。

令和5年 職場における熱中症の発生状況(確定値)等について
基安発 0531 第4号 (令和6年5月31日)

厚生労働省労働基準局安全衛生部長より、当協会会長宛に以下の協力要請がございました。以下に抜粋を記します。

職場における熱中症予防対策について、令和6年2月27日付け基安発 0227 第4号「令和6年「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について」をお送りしたところです。今般、別添1「令和5年 職場における熱中症の発生状況(確定値)」を取りまとめるとともに、別添2により、「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱を改正しました。

つきましては、貴会におかれましても、会員事業場等に対し、周知を図っていただきますとともに、各事業場において熱中症予防の確実な取組が行われますよう、特段の御配慮をお願いいたします。

関連団体短信

一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会セミナー案内

「図解による光学入門」技術講座

開催日: 2024年10月10日(木)10時-17時, 11日(金)9時-15時

会場: ハイブリット(対面+オンライン)での開催となります。

*機械振興会館 別館4階 当協会 研修室

*オンライン(Microsoft Teams 使用)

講師: 齋藤晴司氏

(元株式会社ニコン ビジネススタッフセンター人事部 能力開発室 主幹)

プログラム:

1. 光の性質
2. レンズの働き
3. レンズの収差
4. 像の評価
5. 光学部品の機能
6. 光学的特性を利用したもの
7. 光学製品と自然光

『ズームレンズ設計法』技術講座

開催日：2024年10月16日(水)～17日(木) 10:00-17:00

※新型コロナウイルス感染症の状況及び対面希望者数によっては、オンラインに切り替える場合がございます。

会場：ハイブリッド形式(対面+オンライン)

・機械振興会館 別館 4階(一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会 研修室)・オンライン(Web会議シールは Microsoft Teams です。)

講師：福嶋 省氏(チームオプト株式会社/福嶋光学研究所 光学技術コンサルタント)

プログラム:

第1日目

1. ズームレンズとは
2. ズームレンズの基本構成
3. ズームレンズの各種タイプ実例
4. ズームレンズの最近の話題

第2日目

5. 主要ズームタイプの振り返りとズーム解の一般化
6. ズームレンズ設計のプロセス
7. 発展的設計
8. 設計事例の紹介

『収差論/偏心光学系の3次の収差論』技術講座

講師: 荒木敬介 氏 (宇都宮大学 客員教授)

【収差論】

開催日: 2024年10月9日、23日、11月6日、20日、12月4日、18日
(すべて水曜日)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては延期、もしくは中止もあり得ます。

時間: 10:00~17:00

会場: ハイブリッド形式 (対面+オンライン)

・機械振興会館 別館4階 当協会 研修室 (東京都港区芝公園3-5-22)

電話 03-3435-9321

・オンライン (Microsoft Teams)

定員: 25名(うち対面は、先着順で10名となります)

主催: 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

【偏心光学系の3次の収差論】

開催日: 2024年12月18日 (水)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては延期、もしくは中止もあり得ます。間:10:30~17:00

会場: ハイブリッド形式 (対面+ オンライン)

・機械振興会館 別館4階 当協会 研修室 (東京都港区芝公園3-5-22)

電話 03-3435-9321

・オンライン (Microsoft Teams)

定員: 25名(うち対面は、先着順で10名となります)

主催: 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

プログラム: 【収差論】

1.序論

1.1 収差論の効用

1.2 収差論の基礎としての近軸理論

1.3 近軸理論の活用

2.収差論の導出

2.1 Hamilton の特性関数

2.2 Herzberger 理論の概要

- 3. 実用的な収差論とその公式
 - 3.1 Herzberger の収差論とその公式
 - 3.2 収差係数の正規化
 - 3.3 収差係数の計算と活用の実際
 - (1) 収差係数の正規化
 - (2) 収差係数と実際の収差との対応
 - (3) 収差係数の変換公式とその応用
 - 3.4 薄肉系の収差係数
 - 3.5 固有係数と特性行列
- 4. 収差論応用のケーススタディ
 - (1) 望遠レンズの形状決定
 - (2) トリプレットの形状決定
 - (3) カタディオプトリック系の設計検討

収差論の公式を実際的设计に自由に使いこなす上で重要な、公式の意味とその応用方法に重点をおいて講義を行います。

プログラム: 【偏心光学系の 3 次の収差論】

- 1. 序論
- 2. 偏心光学系の 3 次の収差展開式
- 3. 任意のエレメントの平行移動によって発生する収差項
- 4. 任意のエレメントの傾きによって発生する収差項
- 5. 応用例
 - 5.1 JNLT とその光学系
 - 5.2 偏心収差係数の計算
 - 5.3 偏心許容量の算出
 - 5.4 スポットダイヤグラムによる結果の確認
- 6. 理論式の導出
 - 6.1 回転対称な光学系の 3 次の収差展開式
 - 6.2 基準軸に垂直な方向へのエレメントの平行移動
 - 6.3 基準軸に対するエレメントの傾き

この講座は、上記の「収差論」技術講座を既に受講された方、もしくは同等の知識・経験をお持ちの方を対象とした 1 日コースです。

2024年4月生産・出荷累計統計

	生産		受入	出荷			月末在庫
	数量	金額 (百万円)		数量	販売		
					数量	金額 (百万円)	数量
デジタルカメラ	160,294 (0.89)	9,009 (0.91)	252,032 (0.85)	154,221 (0.87)	13,192 (0.80)	248,525 (0.86)	397,688 (2.06)
フィルムカメラ	4,121 (0.67)	5,653 (0.71)	4,191 (0.94)	3,165 (0.62)	4,495 (0.68)	3,847 (0.73)	11,119 (0.81)
交換レンズ	135,467 (1.03)	9,432 (0.93)	245,066 (0.80)	288,059 (1.03)	20,951 (1.07)	131,280 (0.76)	1,130,237 (1.02)
光学・精密測定機	16,149 (0.66)	4,981 (0.91)	—	26,128 (1.19)	5,177 (0.94)	—	116,607 (1.07)
光分析機器	19,517 (1.34)	26,158 (1.20)	—	12,004 (0.83)	25,721 (1.23)	—	28,117 (2.35)
測 量 機	2,143 (0.55)	433 (0.51)	—	5,239 (0.73)	918 (0.72)	—	10,473 (0.82)
合 計	—	55,666 (0.99)	—	—	70,454 (1.00)	—	—

() 内は、前年比

注) 「受入」: 調査期間中に工場または倉庫に次の事由により受入れられた製品の数量

- (イ) 他企業から購入したもの(輸入を含む)
- (ロ) 同一企業内の他工場から受入れたもの
- (ハ) 委託生産品及び委託加工品を委託先の工場から受入れたもの
- (ニ) 返品(戻入れ)されたもの

令和6年6月28日発行

日本光学工業協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 204号室

電話・ファックス: 03-3431-7073

E-mail: joia@01.246.ne.jp

<http://www.e-joia.jp>

発行人 牛田 一雄

編集 茂木隆宏(事務局)